



教科書に書いていない大切なこと ―地域と一体となった教育活動の充実―

今年度は、全校児童 61 名でスタートでしたが、先日、3名の児童が転出し、全校児童 58 名となりました。人口減少、出生率の低下、子育て世代の都市部への流出などを背景に、全国の学校で児童数が減少しており、教育現場においても様々な影響や変化が起きています。

2018OECD調査によると、日本の子どもは幸福感が低く、特に、「自己有用感」「成長意欲」「人生への満足度」は最低のレベルであったことが報告され、日本の教育に一石が投げられました。自己肯定感、高いと困難に耐えながら解決策を見いだせると言われ、“つながり”の中で高められることが明らかになってきています。多様な他者と関わりながら、自分の存在意義を見つめたり役割を果たしたりすることで、「自分には良いところがある」と思えることが、これからの予測困難な時代を生き抜くための鍵となる能力かもしれません。



一方、こうした時代の変化の中にあっても、大三島小学校には、地域と密着した教育活動が脈々と受け継がれています。5月には、藤まつりへの茶道クラブ参加、交通安全教室、春季運動会、大山祇神社の御田植祭や奉納相撲大会などが目白押しです。また、参道マルシェなど毎週のように開催される地域行事にも多くの児童が参加しており、子どもたちの郷土愛や地域への参画意欲を高める絶好の機会であり、自己肯定感の向上に有効であると考えています。

大三島小の地域と一体となった教育活動や地域行事は、『教科書に書いていない大切な学習内容』であり、本校の一番の強みであると思っています。今後も皆様と共に、地域の「もの・ひと・こと」と関わりを深め、子どもたちの未来を切り拓いていく力を育ててまいりたいと考えています。ご理解とご支援をお願いいたします。



(写真：上「藤まつり茶会の様子」 下「駐在所や交通指導員の方々と安全な歩行の学習」)

もうすぐ運動会



運動会まで残り3日となりました。リハーサルや係会を通して、子どもたちの“やる気”も最高潮に高まっています。雨予報ですが、多くの保護者や地域の方々の前で、運動会ができるよう願っています。皆様のご来校をお待ちしております。

